

# びんごたんぽろ

地域で活動している団体を紹介します

## みらい夢くらぶ

さわやかな風が吹くある日、会長の右田良子さん宅を訪ねると、夏祭りに向けてのスタッフ会議の真っ最中でした。「こうした集まりはストレス解消にもなつて、楽しみのひとつね」と、部屋には明るい笑い声が響いています。

ここ長谷地区には、婦人会、老人会、子ども会と個々の活動団体があります。地域総ぐるみで多世代交流のできる核となるような団体があれば良いと右田さんが考案。そして会の立ち上げのために即、行動を起こしました。2002年から県内外の活動団体を視察するなど自らノウハ



ウを学習。その努力が実を結び、04年3月、「みらい夢くらぶ」が誕生しました。

まず右田さんはスタッフの養成から始めました。やまぐち女性財団主催の「男女共同参画人財セミナー」を受講する傍ら、いろいろな研修を受けて成長したスタッフたちは、今では自主的に運営活動を行っています。「最初の頃、何をどうしていいのやら、戸惑うことが多かったよね」、「家をよく留守にするので、家族の機嫌が悪くなることもあったけど、今じゃ、ゴミ出しから後片付けまでいろいろ協力してくれるんですよ」と、笑いながら話してくださいました。

こうして確実に地域に根付いてきた「みらい夢くらぶ」は、母親クラブ「MYCながたに」や、老人クラブ「長谷古希会」とともに、子どもいけ花教室、交通安全教室、健康教室とバラエティに富んだ多世代交流活動をしています。今年2月に開催された「元氣発信!もつバラおこり」では、昔あそびと子どもみこしに約70人が参加して、祭りを盛り上げました。毎年7月に開催される「ふしの夏祭り」では、カラフルな揃いのTシャツを着た老若男女百人ほどの地区住民が、踊りに彩りを添え、地域活性化に一役買っています。



「何か悩みはありますか?」と尋ねると、「後継者も育てていけないとね。若いお母さんたちの参加がもつとあるといいんだけど、なかなかねえ。それと、お父さんたちにも、もつと積極的に関わってもらえるようにイベントも工夫しないと」と話してくださいました。

元氣パワー全開の「みらい夢くらぶ」の合言葉は、「相手に思いやりを持って、ひびき合い、楽しく幸せに生きていこう!」ひとりよりもみんなの力、生き生きと輝いて活動する「みらい夢くらぶ」の今後の発展を祈りながら、元氣をいっぱいもらいました。

(取材:畑山)

会長/右田良子  
連絡先/山口市小郡下郷2183  
083197210068

## 健康づくり 自分らしく生きるために

健康運動指導士 中原理子  
Nakatani Ritsuko

女性特有の不定愁訴(頭痛、肩こり、便秘、冷え)を予防するには、良い姿勢を心がけることが大切です。

「良い姿勢」とは「きを上げ」の姿勢とは違っています。まず椅子に座り「おしり」を感じてください。「右左」のおしりのどちらかに体重が乗っていますか? 偏っていませんか? 椅子と接している部分の「おしり」を触ってください。肛門を挟んで出っ張った骨(坐骨)が左右にあります。この左右の坐骨に上半身を乗せます。「骨盤を立てる」という感じですが、次に頭のとっぺんを天井に向けてみます。顎が上がればとっぺんは後ろに向きます。顎を引きすぎるととっぺんは前を向きます。頭のとっぺんを天井に向けて顎が自然な位置におさまります。そして頭のとっぺんと、股の中心(スポン)の股の縫い目がクロスしているところが「直線になるように」してみてください。これだけでも気持ちよく「良い姿勢」になっていますか? 坐る・立つ・歩く、日常での心がけと積み重ねが私達の姿勢につながり、何年後かに大きな違いとなって出てきます。

心地よい体づくりは、体の中心を整える「センターリング」から始めましょう。



# 人財彩時記

山口県で幅広く活躍している人を紹介します



県内初の女性青年林業士  
ふかだ あみこ  
深田 文子 さん

## プロフィール

1958年生まれ  
山形県新庄市出身  
横浜市の日本配合飼料(株)に入社  
研究所で家畜の防疫業務担当  
結婚後、1980年12月に夫の実家  
にUターン、林業に携わる  
1997年5月深田林業(有)を設立  
1999年2月山口県指導林業士認定  
夫と一男一女、母の5人暮らし

今回は、山口県で初めて(注)女性青年林業士となり、現在は指導林業士として活躍されている深田文子さんを紹介します。実際にお会いした深田さんは、力仕事をされるようにとは思えない、柔らかな雰囲気を感じた方でした。

林業士になったきっかけをお伺いしました。「結婚後、夫の実家にUターンし、夫婦



で山の掃除をしたり、樹を植えるお手伝いなどをしているうちに、必要になった資格を取ってきたことからです。初の青年林業士だからといって周りが慌しいのも恐縮なんですよ」。

今の主な仕事は、伐採・搬出・運搬。しかも、搬出するのに道がなければ林道まで造ります。そして、林道関係のメンテナンスもしておられます。ほとんどの仕事は「夫婦でこなす、忙しいときには、アルバイトを雇って対応されるそうです。最初はご夫婦で切り盛りしてきた仕事も「林業関係の仕事がどんどん増えちゃって、法人(有会社)にしました」。

林業の作業は危険が伴います。道具を使うにも資格が必要だそうで、チェーンソーや玉架けなどの資格を取得され、最近では土木施工の資格も取得されたそうです。

深田さんが資格を取り始めたのは、折りしも「改正男女雇用機会均等法」が施行された1999年でした。これまで「男の職場」だった林業の世界に深田さんは挑戦されたことになりませんが、深田さんは「林業士は男性の仕事という意識はなかったです。私は必要に迫られて、林業士になり

ましたが、私は、男性と女性とは、体質などの質の違いはあるけれど、フォローし合いながら性別にこだわらず、いろんなことに挑戦されたいと思います」。

実際にはご苦労が多かったのでは? 「苦勞というほどではありませんが、周りに女性が少なく、女性との交流がほとんどありませんでした(笑)。なので、自分から女性との関わりを持ちたくて、PTAの役員になったり、地域や県の委員になったりしました」。

それらの関わりがネットワークとなり、気の合う仲間たちとともに、森林や樹木に親しみ、それらを利用し、自然への感謝と楽しみを見つけることを目的とした「遊林クラブ」を設立され、休日も意欲的に活動されています。

山を慈しむ深田さんは「山で提供できることはすべて提供したいですね」。

自然体で、いきいきと活動している深田文子さん。緑豊かな三隅の森での活動がいつそう発展されますよう、お祈りいたします。

(取材: 藤田)

(注)年齢25歳以上、40歳未満であつて、将来とも優れた近代的林業経営を志す者。

## ピュアコラム

文 ● 花形武子

特別養護老人ホームでの朗読ボランティアを始め10年近く経つ。百回を超える回数を重ねてきた中で、面白く感じる詩に出合った。

周南市出身のまごみち氏には、「ぞうさん」「ふしぎなポケット」「やぎさんゆうびん」などの数多くの作品がある。

その中で「やぎさんゆうびん」は、1番の「白やぎさんからお手紙ついた。黒やぎさんなら読まずに食べた」のフレーズは、2番の「黒やぎさんからお手紙ついた。白やぎさんなら読まずに食べた」のフレーズの1番と2番の白やぎさんと黒やぎさんを入れ替えても、何の違和感もない詩であること。1番、2番と順番をつけなくても、ずっとエンドレスで続く詩であること。着いたとたんに食べられてしまう手紙は、永久に自身の判らない手紙であること。

本当は中身などどうでもよくて、白やぎさんと黒やぎさんはお互いの友情関係の上に成り立っていて、お互いの気持ちを思いやって手紙のやりとりを続ける。

白やぎさんと黒やぎさんの心と心は深く結ばれているという、やぎさんの手紙に隠されたメッセージであるともいえよう。

人間の社会では、なかなかそのようには行かないものがあるが、「袖ひり合つても他生の縁」せめてアイコンタクトでにっこりすることが運ぶような世の中であつてほしいと思うものである。

## Pure Column

# 講師の 横顔



あかばね きよし  
赤羽 潔さん

プロフィール  
山口県立大学社会福祉学部教授  
(臨床教育学)  
附属地域共生センター所長  
指導分野  
教育、子育て、家庭づくり、リーダー  
論、父親論、学校と家庭及び地域の連携

今回私は、財団からの派遣事業である、赤羽先生のお話を聞くために美祿市於福公民館に伺いました。

於福地区人権教育推進協議会が主催の懇談会には、協議会の会長をはじめ65人以上の地域の方が集まり、当日の外の豪雨に負けにくい、会場はとてにぎやかでした。

懇談会のテーマは「いじめ」を超えてわかり合う—かかわり・ぶつかり・認め合い」。男女共同参画とは「一見無縁のようなテーマでしたが、先生は、地域の人に支えられて生きてゆくことや、少年時代の辛い経験を交えながら、子どもとのかかわり方についても話をされました。

「どんなときでも会話を大切にし、やるときは一生懸命楽しくやり、疲れたら無理せず休む」と常に自分自身に語りかけ、前向きに生きてきたという赤羽先生。いじめ、家庭内暴力、引きこもりの問題とこそ解決法を体験にもとづき、ジョークを交えながら温かいやさしい言葉で語られました。あつという間に時間がすぎて、もっと聞いていたいと思いました。

地域に生きる人間として生きる喜びを膨らませること、人とのふれあいで困難に

出会って対話を楽しむこと、命とはかけがえないものでありそれが理解できること、豊かなところからだを持つこと。

私は今回の取材を通じて、生きることの大切さを学ぶことができました。先生の生き方、考え方はまさに男女共同参画の基本ともいうべきにふさわしいと感じました。  
(取材：野村)



## 「いじめ」を超えてわかり合う

—かかわり・ぶつかり・認め合い—

やまぐち女性財団では、登録していただいている講師を、団体やグループが行う男女共同参画の研修会へ派遣しています。

## 木久蔵流がんばらない子育て

Book

林家木久蔵、二代目林家木久蔵著  
(教育評論社)



テレビ番組でお馴染みの林家木久蔵改め林家木久蔵節と息子二代目林家木久蔵さんが子育てについて父と息子の視点から纏める一冊。一風変わった親子の接し方を教えてくれます。おつかいにかこつけてトコを出初してもらった息子、「うち田舎なの？」の一言がきっかけで長野に別荘を構えた親父——と、落語家ならではのエピソードも満載ですが、2人の対談では「父親は」後者に強調されるものも背負って走ってもらいたいなものの一本目です。

## 男と女の離婚格差

Book

石坂晴海著  
(小学館)



離婚を切り出す妻と、「家族のために生懸命働いて別不自由な生活をさせてきたのに、何が不幸なのか、何が不満なのか」と思う夫。夫婦間に備わった幸せの溝を、本書では、離婚に踏み切った妻と体の数などをとくに紐解いていきます。モラルハラスメント精神的DV、浮気、過度の期待など夫婦それぞれの本音が、夫婦の感情の行き違いを正すヒントが見えてきます。離婚には嫌がらないと思っても、異性とみると思わずに六が身づかるかもしれせん

## サマリーウィメンズ研究所(LIFE・WORK)

Book

小林由紀子、日経WOMAN編  
(日本経済新聞社)



「女性だから」といった大げんか思われるのは、なぜ？」「どうすれば、仕事を任せてもらえる人になりますか？」「年齢制限の壁をどう乗り越えるの？」などなど、女性が抱く疑問や今さら聞けない質問に、講師や作家、ジャーナリストなどが対談形式で答えていく笑いと涙、涙ありの生き方応援ブック。制作当時はまだ早大に在籍していたそのまんま東さんは、大学に通っていたらというので大きく変わったわけではないが「うめほれではない自信が付いた」と語っています。なるほど。

## それでも家族を愛してる

Book

ポー・ブロンソン著、桐谷知未訳  
(アスペクト)



「自分らしい、家族を見つけ出した何の物語かの問題にある」と語り、著者が出会った19の家族の過去や現在を、家族の言葉とともに見つめています。移民、シングル、暴力……。家族が抱えぬ力に引き抜かれながらも、現状を受け入れ、小さな幸せを手にし、よつとする妻が次々と映し出されます。愛を与えるには愛を教える必要はない、愛を教える必要はないのか。夫の時を取り戻すことはできるのか。家族や夫婦の愛について深く考えるノンフィクション小説です。

## ライブラリー紹介

やまぐち女性財団では男女共同参画の啓発図書＆ビデオの貸し出しを行っています。

# 協働のための実践力養成セミナー2007

「組織の学び」～組織を成長させる“実践のふり返し”～

財団法人日本女性学習財団主催



NPOや市民活動、職場などの組織が成長・発展するためには、個人個人の学びに加えて「組織の学び」の視点が大切。2日間にわたるこのセミナーは、「実践のふり返し」を通して、組織が成長・発展していくための学びと支援のあり方について体験的に学びあうことを目的として開催されました。

1日目は、学習支援者の三輪健二氏が、組織が学習する組織に変わること、つまり「実践コミュニティ」の必要性について講義をされました。次に2つの事例を聴いた後、数人のグループに分かれ、予め用意した資料をもとに一人ひとりが「語る」、耳を傾けて「聴く」、時間を持ちました。

課題を「語る」ということは、自分たちが無意識に行っていた部分を意識をもってふり返るということにつながり、結果として実践力をつけていくというねらいがあります。

2日目は、課題と目標を共有できるメンバーに分かれてのグループワーク。

- ① 組織の展開に「私」は何ができるか
  - ② 「私とリーダーシップ」をふり返る
  - ③ 「語る・聴く」場をどうつくるか
  - ④ 改めて「協働」のメリットを考える
- という課題で4つのグループに分かれました。昨日とは違うメンバーと、さらに課題を深める「語る」、「聴く」、時間を持ちました。

関わっている活動の分野も地域も違うけれども、短期から長期間の組織のふり返しを行うことで課題を見つめなおすことができ、今まで見えていなかった課題に気づいたり、解決策を発見したという参加者からの感想がありました。

最後に、学習支援者である入江直子氏から、「協働の時代」といわれる今日、協働するには自立した組織となることが必要だと助言がありました。自立した組織というのは、自分たちの活動を自分たちで評価できる組織のことです。組織としてどう動いてきたかのふり返りが、組織を成長させる、ふり返りの重要性を改めて確認できたセミナーでした。

## 学習支援者

三輪健二氏（お茶の水女子大学教育学部教授）  
 入江直子氏（神奈川大学人間科学部教授）  
 亀田温子氏（千文字学園女子大学社会学部教授）  
 菊池朋子氏（岡山県市男女共同参画推進協会職員）  
 佐野育子氏（ボランティア教育自励会）

（報告：佐々木）

## 平成19年度 配偶者暴力(DV)防止地域フォーラム

配偶者からの暴力防止について理解を深めていただくためのイベントを開催します。

11月10日(土) 13:00~15:00

ルルサス防府(防府市栄町)

「DVを乗り越えて人とつながること」

～地域の中で私たちができること～

講師 野本 律子氏

「女性ネットSaya-Saya」共同代表、セラピスト、カウンセラー等

**プロフィール** 全国初の夫からの暴力から逃れる駆け込み寺「AKK女性シェルター」を1993年設立。暴力被害女性等の経済的自立、就労支援のための「自然派レストランSaya-Saya」を2001年オープンさせる。現在、地域生活支援ネットワーク「女性ネットSaya-Saya」共同代表を務め、これまでに多くの夫婦間暴力等の相談にあたり、自立支援を行う。

11月20日(火) 13:00~15:00

サンライフ萩(萩市大字土原)

「こどもたちを被害者にも加害者にもしないために」

～DV・虐待のない社会づくりに向けて～

講師 川崎 政宏氏

NPO法人おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ理事長、弁護士

**プロフィール** 子どもの権利委員会、犯罪被害者支援センター運営委員として、DV事件、こども虐待などの被害者支援活動に携わるとともに、民間シェルターの協力弁護士として活動。現在、「NPO法人おかやま犯罪被害者サポートファミリーズ」、「デートDV防止プロジェクト・おかやま」の各代表を務め、活躍中。

問合せ先 ● 山口県男女共同参画課 電話/083-933-2630

# 平成19年度 男女共同参画フォーラム

世代を超えて創る男女共同参画社会 ～ともに語り ともに歩いて 未来を拓く～

男女共同参画を幅広く普及するため、県民の方々はもちろん、大学生等、若い世代の方々にも理解を深めていただくためにフォーラムを開催します。

**平成19年10月28日(日) 10:00～15:30 徳山大学(周南市学園台)**

■内容/講演、5分科会、パネル展示・ワークショップ等

やまぐち女性財団主催分科会 10:00～11:30

「愛する」ってどういうこと? ～考えてみませんか デートDVについて～

■講師/ 山口のり子氏(クアウェア代表 DV被害者プログラム&デートDV防止プログラム・ファシリテーター)

若年層に広がっているDVについて山口のり子さんから話を聞きます。

ビデオ「デートDV～相手を尊重する関係をつくる」視聴の後、グループワークで本当の愛情について一緒に考える分科会です。

講演 14:00～15:30

「パートナーと歩む、こどもと歩む、オラのやりかた  
～やまがた+やまぐち 本音トーク～」

■講師/ ダニエル・カール氏(タレント、山形井研究家)



ダニエル・カール氏

## ピュアネット・アンケート

アンケートにご協力をお願いします。

- ①ピュアネット特集で取り上げた企業が受賞した、ファミリー・フレンドリー企業表彰を知っていますか?
- ②あなたの就業先で育児・介護支援制度がありますか?
- ③ファミリーサポートなど子育て支援の制度を知っていますか?
- ④子育て支援制度を利用したことがありますか?
- ⑤デートDVを知っていますか?
- ⑥ピュアネットを今までに読んだことがありますか?
- ⑦ピュアネットについての感想をお聞かせください。

■応募方法

- 氏名、住所、性別、年齢、職業、電話番号を記入し、ハガキ、FAX、Eメールでお送りください。また財団ホームページでもアンケートを行っていますので、ホームページもご利用ください。
- ご協力いただいた方の中から、抽選で10名の方に図書カード(1,000円分)をプレゼントいたします。
- 当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

締め切り/平成19年11月30日(金) 消印有効

## ピュアネットからのお知らせ

●みなさんの声をお待ちしています。

ピュアネットは、皆さんと財団を結ぶ情報の「ひろば」です。購入希望図書・ビデオ名、編集についての意見、お気づき、活動の状況や質問等々、お気軽にお寄せください。

●ピュアネット定期購読者を募集します。

ピュアネットは、年2回(9月、3月)の発行です。定期購読(無料)をご希望の方は、事務局までお申し込みください。

## Information

●問い合わせ先

**財団法人 やまぐち女性財団事務局**

〒753-8501

山口市滝町1-1 山口県男女共同参画課内

TEL・FAX 083-933-2643

URL <http://www.purennet.or.arena.ne.jp>

E-mail [purennet@mbs.sphere.ne.jp](mailto:purennet@mbs.sphere.ne.jp)



ピュアネット

September 2007 Vol.38

(編集・発行)

財団法人 やまぐち女性財団

〒753-8501 山口市滝町1番1号

TEL・FAX 083-933-2643